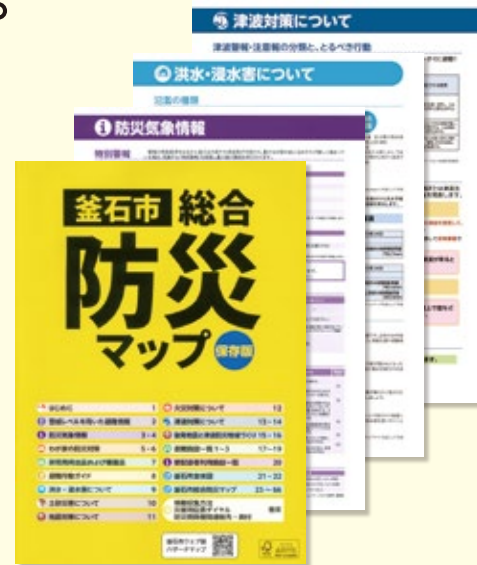


釜石市総合防災マップを配布します

市は、冊子形式の「釜石市総合防災マップ」を作成しました。

4月初旬から市内全世帯に行政連絡員を通じて配布します。地区によっては配布期間が多少前後することがありますので、あらかじめご理解をお願いします。



3つの活用のポイント

1. 災害を知ろう

地震や津波、土砂災害など、災害によって、それぞれ特徴があり、災害ごとに取るべき行動は異なります。

それぞれの災害の特徴を理解し、自分取るべき避難行動のポイントを確認することで、被害に合うリスクは大幅に軽減されます。

2. 避難経路を歩いてみよう

この防災マップには、土砂災害や津波の緊急避難場所、拠点避難所が記載されたハザードマップも掲載しています。自宅や職場周辺の避難場所の状況を確認し、実際に歩くことで、避難にかかる時間や経路を先に理解することができます。

3. 災害に備えよう

災害はいつどこで発生するか分かりません。そのため、日ごろからの備えが大切です。家の中や周囲の安全対策、非常用の持ち出し用品や備蓄品の準備は済んでいますか？ 一覧を確認して、備えを万全にしましょう。



- ① サイレンが鳴り、緊急避難場所へ避難する住民（鵜住居町）
- ② 災害対策本部では、スマホの位置情報を活用し、適切な避難行動が取られているかを分析する実証実験も行われました
- ③ 訓練に合わせ、備品の確認を行う住民（中小川地区）
- ④ 避難所開設訓練で簡易ベッドを組み立てる釜石東中の生徒ら
- ⑤ 連携の取れた動きで炊き出し訓練を行う中小川町内会婦人部

犠牲を出さないために 今できる備えを万全に

中小川町内会 佐々木 正雪 会長



我々は、震災後毎年9月に自主的に防災訓練を行っています。今回はそのノウハウを生かして、市の訓練に合わせて後方支援という形で炊き出し訓練を行うことにしました。

非常時に円滑に動くためには、日ごろから地域が連携できるようにすることも重要です。そのため、当町内会では年間を通して行事を多く開催し連携を強めるようにしています。その甲斐もあってか、今日は役員だけの参加なので20人ほどですが、全体で開催する時は100人以上が訓練に参加してくれます。

今後も少子高齢化が進む中でも地域の活力を維持するため、今まで以上に連携を強くできるように活動を継続していきます。

所の開設訓練も行われ、実際の災害時に住民主体で避難行動が取れるように確認しました。中小川町内会では、20人以上の地域住民が集まり、後方支援を想定した炊き出し訓練を行いました。災害はいつどこで発生するか分かりません。あらゆることを想定し、自分の命は自分で守り、それぞれの役割を行うことが求められます。今回参加できなかった人は、自宅や職場周辺の危険箇所や災害時の避難の仕方などを確認し、今できる備えを万全にしましょう。



地震が発生し、大津波警報が発令したことを想定した避難訓練が3月3日に市内全域で行われました。市は、市立図書館で災害対策本部運営訓練を行った他、市内各地でも自主防災組織・町内会を中心に避難訓練が行われました。東日本大震災でも被害が大きかった鵜住居地区では、町内会を中心に約100人が緊急避難場所である鵜住居小・釜石東中のグラウンドへと避難しました。その後、避難所に指定されている同小中の体育館で、避難



鵜住居町内会 古川 愛明 会長



私たちの地域は震災の被害が大きかったので、その経験を踏まえ二度と同じことを繰り返さないために継続して避難訓練を行っています。その中で意識しているのが「自主性」です。災害時も避難所の運営を自分たちでやらなければならない時があると思います。そうした事態を想定し、昨年から避難することに加え、避難所の開設訓練も行い、段ボールベッドやテントの組み立て、備蓄倉庫に何があるかを確認するようにしています。

「てんでんこ」言葉だけでなく、こうした訓練を通して「実践」を積み重ねていくことが重要だと思います。実践することで新たな課題が見え、犠牲者ゼロという未来につながっていくと考えますので、今後も訓練を継続していきます。